

吉野石膏コレクション展 絵画と貴重書の世界

練馬区立美術館(中村橋) 23.02.26~04.16

「吉野石膏(株)」は、山形県を創業地とする石膏ボード、石膏プラスターなどの不燃建材のトップメーカーとして飛躍的な発展を続けている会社である。

会社には、芸術を通じて社会に貢献したいとの思いから、設立した「公益財団法人吉野石膏美術振興財団」があり、その貴重書コレクションを有する「アート・ライブラリー」より、本展では、コレクションの絵画と本の結びつきに注目して選んだ「およそ100点」の作品を展示している。

このアート・ライブラリーのコレクションは、中世彩色写本から近代のアーティスト・ブックに至る、ヨーロッパの美しい本の歴史をたどるもので、なかでも印象派の画家「カミーユ・ピサロ」の息子「リュシアン・ピサロ」が設立した「エラニープレスのコレクション」は国内随一を誇るものとされている。

本展は、絵画と絵本の結びつきに着目して、日本画や洋画、西洋絵画、貴重書を紹介するもので、12世紀から20世紀までの書物と絵画をあわせて展示することで、二つの分野が関わり合いつつ歩んできた足跡を辿っている。



カミーユ・ピサロ 《ロンドン・キューガーデンの大温室前の散歩道》 1892年
ロンドンのキューにある「キューガーデン」は、18世紀に造られた王立植物園で植物学の研究施設に発展し、2003年には世界遺産に登録されている。

印象派の父と呼ばれる画伯は、本作では若干「点描がかった技法」を試みて淡い光が柔らかな表現で描かれ、温厚さや控え目な性格がよくわかる。

画面の色彩は鮮やかに仕上がっており、陽光溢れる庭の情景が鮮明に描かれているが、画面の両端には散歩道を散策する人々が描かれていて、誰も居ないような静かな空気が漂っている少々不思議な雰囲気を感じさせる。

シャルル・ペロー 《眠れる森の美女・赤ずきん:二つの寓話》 エラニープレス
《時祷書零葉》 羊皮紙 15世紀フランス 中図と右図